
うさぎブログ

みさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うさぎブログ

【Nコード】

N8558T

【作者名】

みさ

【あらすじ】

そのウサギを引き取ったのは、どこにでもいるサラリーマン。人生にくたびれたようなそんな男と、ともに幸せになるお話です。ハッピーエンドです。

(前書き)

輪コマ丸です。

『コマル』。

それがボクの最初の名前だった。

二度目は『モモコ』。

ボクはオスなのだけれど、なぜか女の子のような名前を付けられた。

それには深い深い、人間の事情があるようだけれど、ボクにはよく分からないです。

三度目の名前は、まだない。

今、ボクはペットショップに身を置いているけれど、新しい飼い主が決まったので、今日引き取られる予定です。

*
*
*
*
*

☆6月17日☆

新しい飼い主は、西田菊男にしだきくおと言う人だった。

名前が示すとおり、男だった。

あまり若い人ではなかった。

背広でボクと対面した菊男さんは、町にありふれたサラリーマンだった。

ボクは今、なぜだか犬小屋の中にいます。

菊男さんは、ボクが住むためのケースをまだ買っていないからです。というか、そのことに気がついたのは、ボクがこの家に来てから。とつぜん頭を抱えたので何事かと思ったが、菊男さんはそういう世間知らずということが分かった。ふつう、うさぎを飼うなら先に住まいを用意すべきだろう。しかも、なぜ仮住まいが犬小屋なのか。これも、人間の深い事情というやつなのでしょうか……？

でも、菊男さんはすぐ落ちこんでいて、ずっと申し訳なさそうな顔をして、「ごめんね」と何度もつぶやいていた。

犬小屋はとても暗くて、広くて、寒くはなかったけれどとても寂しかった。このまま放ったらかしにされるんじゃないかと、少し……不安になった。

『キョウスケ』という、男らしい名前をもらった。

☆6月18日☆

例年より数日遅れて梅雨がやってきた。雨降りの憂うつな季節です。

菊男さんはボクに「いってきます」を言って、朝早くから会社に出かけた。

夕方、うさぎのケースを右手に、菊男さんが帰ってきた。ボクは早速ケースに入れられ、居間に置かれた。

菊男さんがボクを見てほえんだ。初めて見る表情に、ボクは少し胸がおどった。

☆6月19日☆

菊男さんが元気ないです。

さつき帰ってきてからため息ばかりです。

ビール缶のふたを開け、菊男さんはぼつりぼつりと話し始めた。

今日、課長に呼ばれた。

いいことも、悪いこともした覚えはなかったので、いやな予感があったそうです。そして、その予感は的中してしまった。

解雇を言い渡された。

おそらく自分が悪いのではない、外国の某株式会社が倒産した影響による不況が、この事態をまねいてしまったのだろう、そう言っ
て菊男さんはうなだれた。これからどうしよう、とも言っていた。

ボクには祈ることしかできなくて、だからその晩は、ずっと神に
祈りをささげた。

☆6月20日☆

菊男さんはアルバイトの面接に行った。
合格しますように、とボクはこの日も祈っていた。

☆6月21日☆

バイトの可否の電話がかかってきた。
採用の連絡だった。

菊男さんが明日から勤めるのは、土木関連のしごと。

どうか、ぶじに一日が過ぎますように。。。。。

☆6月22日☆

土木のしごとは想像以上に疲れたようで、菊男さんは、帰ってくるなり熟睡した。

起きてからは、今日あった色々な話を聞いた。

まず班長がすごく厳しかったこと、雰囲気がびりびりしていたこと、事務の女性がにこにこしていたこと、腰が痛くなったこと……

その中でも、一番うれしそうに、一番よくしゃべっていたのが、事務の女性のことだった。50歳だし、もうそんな歳ではないとは思いますが、恋心、というものを抱いているのだなと感じた。

☆6月23日☆

女の人を、つれてきた。

菊男さんは嬉しそうに、ずっとにこにこしていた。

おそらくは、事務員の女性だろう。でも、なぜここに来ているのだろうか。菊男さんに好意でも寄せていたりして。

二人の会話の内容から、女性が40代半ばであることを知った。実年齢より全然若く見える。年齢的には、女性、というよりオバサンだけれど、彼女にはそれを感じさせない気品がただよっていた。上品な人だった。

二人はやけに仲良く話しこんでいた。どうやら、二人は昔、近所に住んでいたことがあったらしい。お互い、幼い頃だったので、思いつくのに時間がかったようです。

菊男さんが彼女に好意を寄せているのは見ていてすぐ分かったけれど、どうやら、彼女の方も菊男さんに好意を寄せているみたいです。両想い、というやつです。

* * * *

これが、ボクが彼女を見た初めての日です。
それ以後、菊男さんはたびたび彼女をつれてくるようになりました。

彼女は、菊男さんの言った「ある言葉」に惹かれた、と言っていたけれど、それがどういったものなのか、ボクに知るすべはなかった。菊男さん自身も覚えていないらしいです。本当かどうかは、よく分かりませんが。

それから一年後。

菊男さんが安定した職業に就いたのと同時に、菊男さんと彼女が正式に結ばれました。二人とも、とても幸せそうです。

それからまた一年後。

男の子が一人、増えました。

家族が一人、また一人と増えていく。

家族っていいな……って。

菊男さんと出会って、ボクは初めて「家族」を実感した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8558t/>

うさぎブログ

2011年11月11日14時58分発行